

平成 29 年 1 月 11 日

## 東松島復興推進員だより(第 30 号)

～地を往きて走らず～

JICA 地域復興推進員、野蒜地域担当の齊藤です。昨年中は地域復興推進員活動への格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。本年も宜しく願いいたします。

あと 1 か月で 2017 年 3 月 11 日を迎え、東日本大震災の発生から 6 年が過ぎようとしております。東松島市野蒜地域の復興も少しずつ進み、2016 年 11 月をもって、集団移転地となる高台の野蒜ヶ丘に自立再建をされる住民の方への宅地引渡しが全て終了し、少しずつ家も建ち始め、住み始める方も多くなってきました。さらに 2017 年 1 月には、宮野森小学校の新校舎が完成し、子どもたちも新しい学校での生活がスタートしました。また、災害公営住宅は 2017 年 8 月までに整備が予定されるなど、目に見える形での新しいコミュニティが始まりつつあります。

本号では、宅地引渡しが全て完了という一つの大きな節目を迎えた 11 月 20 日(日)に開催された『ひがしまつしまし福幸まつり』の様子をご紹介します。私たち地域復興推進員も(独)国際協力機構(JICA)として、このイベントを盛り上げるべくブース出店を行いましたので、併せてご紹介いたします。

〈ひがしまつしま福幸まつり〉



新しく完成した野蒜市民センター



ハト風船も飛ばされました

『ひがしまつしまし福幸まつり』は、前述の通り、最後の防災集団移転促進事業で整備していた野蒜北部丘陵団地(野蒜ヶ丘)が完成し、東松島市全体の宅地引渡しの

完了や、野蒜市民センターなどの施設の完成を祝うとともに、全国からの支援に対し、感謝の気持ちを伝えるために、東松島市と野蒜まちづくり協議会による共催で開催されました。新しく整備された野蒜市民センターの駐車場や近くの道路を会場とし、ステージイベントや、野蒜地域の自治会、東松島市とこれまで関係のあった団体による出店も多く並び、のべ1万3千人もの来場者がありました。また、最後の宅地引渡し式や新しく完成した野蒜市民センターの開所式、一部道路の開通式など式典関係も並行して行われ、ハト風船も空へと舞いあがるなど、東松島市の復興において、多くの方々にとって大きな節目のイベントになったとも感じられました。



前 JICA 地域復興推進員の  
佐々木さんも駆けつけました



自治会など多くのブースが  
出店されました

〈JICA 展示ブース〉



たくさん子どもたちが来てくれました



野蒜まちづくり協議会キャラクター  
まっくんの缶バッジ

私たち JICA 地域復興推進員もブース出店を行い、イベントを盛り上げました。私たちのブースでは、国際協カクイズと、民族衣装体験コーナーを設けました。クイズは、

フィリピンやトンガ、カンボジアなど世界各国の写真に関する質問に対し、選択肢から正解を選んでもらうもので、参加者には野蒜まちづくり協議会のキャラクター「まっくん」とコラボレーションした特別な JICA バッチをプレゼントしました。イベントにはちょうど来日していたフィリピンからの草の根技術協力事業の研修員も参加し、一緒に来場者へクイズを出題しながら、カタコトの英語と日本語で地域の方々と一生懸命交流していたのが印象的でした。

また、世界各国の民族衣装を実際に着てもらい、自由にカメラで撮影できる民族衣装の体験コーナーでは、お一人できれいにカッコよく着こなす方や、グループでワイワイ着てもらい、様々なポーズで撮影を行う方など、東松島から遠い海外の文化を楽しんで触れてもらえたようでした。

〈イベントを終えて〉

今回のイベント開催は、東松島市の復興の一つの節目となりましたが、いよいよこれからが「まち」として機能する最初の年となります。これからも、JICA 地域復興推進員の活動を通して、「まち」が元気に動いていく姿を応援していきたいと思えます。

**【推進員だよりバックナンバー：JICA 東北ホームページ】**

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上

\*\*\*\*\*

JICA は、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団(NPO)等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。

\*\*\*\*\*